

マーチングバンドの楽器編成

マーチングバンド〈木管楽器+マーチングブラス+マーチング打楽器〉

●マーチングバンドの編成のポイント

マーチングバンドは、金管楽器と打楽器で編成する場合と、木管楽器を加える場合がありますが、演奏効果からいって、金管楽器を中心に考えます。最小の編成としては、次のようになります。コルネット(トランペット)6、アルトホルン(ホルン)2、トロンボーン2、ユーフォニアム2、スーザフォン2、バスドラム、スネアドラム、テナードラム、シンバル各1、計18。以上の編成なら3声部によるハーモニーも求められますし、対旋律の効果も充分発揮でき、音楽的な演奏効果が得られます。

●マーチングバンドの演奏形態

マーチングバンドの演奏形態は、次の3つに分類できます。

I.パレード、II.フロア(フィールド)・ドリル、III.ステージ・ドリル。

〈I.パレード〉

パレードでは、トランペット(コルネット)がスター的存在になりますが、このパートが、バンドの前に位置するか、後ろに位置するかで、かなり効果は異なってきます。前に位置するときは、トロンボーンとともに、迫力のある旋律を印象づける演奏効果を上げますが、バンド後方のメンバーには聞こえにくいと言えます。バンドの後ろに位置するときは、バンドメンバーに旋律をよく解らせることができますが、トロンボーンと離れるため、中音と高音の対旋律が薄まり、曲の印象を弱めます。図はトランペットをバンドの中央に配した例です。演奏場所、曲目に応じて、適切な隊形を組むようにしましょう。

〈II.フロア(フィールド)・ドリル〉

フィールド・ドリルは、アメリカンフットボールのハーフタイムでグラウンド一杯に繰り広げられるショーとして、広く知られています。フロア・ドリルは屋内で行われ、バンドメンバーによって描き出される、絵や人文字、隊形変換やステップの変化などによって動きを楽しく見せることができるドリル・フォーメーションです。

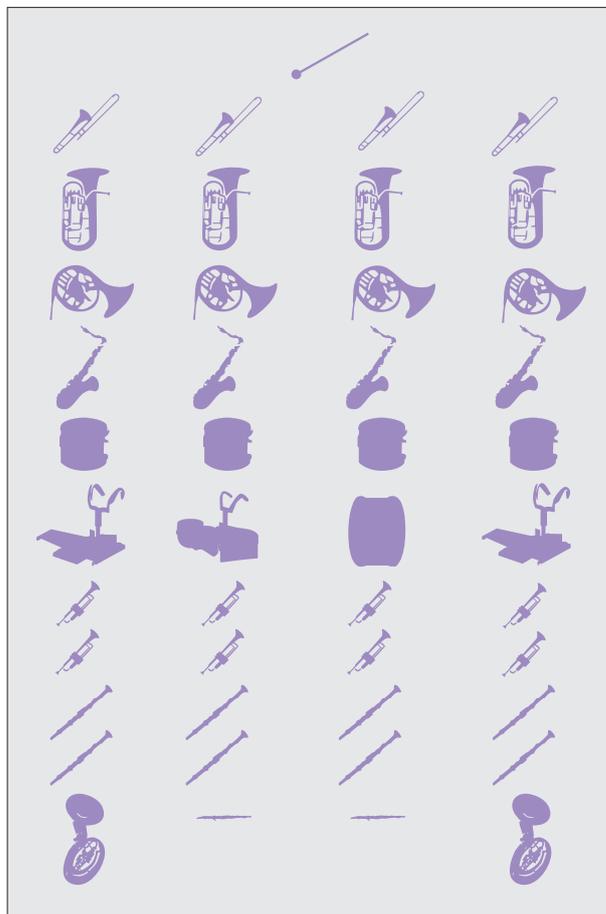
日本では、マーチングフェスティバル等、数多くの行事や大会は、屋内で行われています。

〈III.ステージ・ドリル〉

コンサート会場のステージを使い、演奏に合わせて表現する形態。定期演奏会をはじめとする発表会等のプログラムとして行われています。



マーチングバンド編成例



マーチングバンド編成例

楽器名	編成数		
	40人	60人	80人
ピッコロ	1	1	2
フルート	4	6	8
クラリネット	6	8	10
アルトサクソフォン	2	4	6
テナーサクソフォン	1	2	2
トランペット	6	8	10
ホルン・マーチングメロフォン	2	4	6
トロンボーン・マーチングバリトン	4	4	6
ユーフォニアム・マーチングユーフォニアム	2	4	6
スーザフォン・マーチングチューバ	2	4	6
マーチングスネアドラム	2	4	5
マーチングマルチタム(トリオ or クォード or セクステット)	1	2	3
マーチングバスドラム(14"~28")	3	4	5
シンバル(16"~20")	2	3	3
マーチングベル	1	1	1
マーチングシロフォン	1	1	1